

京葉銀行のコミュニケーションシンボル



「A」の交点の立体的な重なりと上方へ鋭く伸びてゆくラインは、
人と人との交わりと、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。
コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、
“人との交わりを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”
“常に皆様にプラスアルファを提供し続ける銀行になりたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。





取締役会長
綿貫 弘一

取締役頭取
小島 信夫

ごあいさつ

いつも「アルファバンク」京葉銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年も、私どもに対する皆様のご理解を一層深めていただけるようディスクロージャー誌「2008京葉銀行レポート」を作成いたしました。当行の経営方針や業務内容、地域社会とのふれあいについてできるだけ分かり易くご説明させていただくことを心がけました。ご参考にしていただければ幸いに存じます。

平成19年度の金融経済情勢を振り返りますと、上半期は好調な企業業績を受け、設備投資も堅調に推移するなど緩やかな回復が続いたものの、下半期以降はサブプライムローン問題に端を発した株式市場の低迷、急激な円高や原油価格の高騰など、経済環境の変化が企業業績や消費者物価に影響を与える厳しい環境となり、景気の先行き不透明感が増しました。

このような環境の中、当行では平成19年度からの2年間を地域のお客様と共に発展していくための非常に重要な期間と位置付け、第13次中期経営計画「 α ACTION PLAN 2009」を推進しております。本計画を達成することにより、経営課題である「お客様、株主からの厚い信頼の獲得、地域社会への貢献と従業員満足度の向上」、「地域の活性化に向けた取組み」、「経営管理体制の強化」、「収益力の強化」を実現します。

なお、第102期定時株主総会終了後の取締役会で、取締役会長に綿貫弘一が、取締役頭取に小島信夫がそれぞれ就任いたしました。

新体制のもと、これからも皆様からの厚い信頼を未来へと繋げていくために、地域社会にお役に立てる銀行として、役職員一同より一層の努力を重ねてまいります。

引き続き、皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長 綿貫 弘一

取締役頭取 小島 信夫